



ほほえみ

年少だより

担任 中村 孝枝

雨上がりの園庭は格好の遊び場所。裸足で水たまりに入って水や泥を跳ね上げる子どもや、タポタポした泥に興味をもち、容器に集める子どももいます。また、程よく湿った土は泥団子の材料にピッタリです。梅雨ならではの遊びを満喫していきたいと思います。

5月の保育より 砂場あそび



つばめ組は砂いじりが大好き。園庭のいたるところで砂遊びが始まります。中には石を一生懸命集めている子もいます。砂を集めてカップに入れて、出してまたカップに入れてと繰り返しています。大人には単純な作業と思えるそんな行動から子どもたちは、砂の触感、温度、音、重さなど、五感を使って砂の性質を理解していきます。

砂場でも最初は一人で黙々と砂を出したり入れたりしていたつばめ組ですが、近くで砂を深く掘って水を流し込む異年齢児の姿に刺激され、一緒に水を運びだしました。最初は小さなカップで水を運んでいました。水道から穴まで水を水がこぼれないように慎重に往復しています。そのうちに周りを見ながらペットボトルを持ち出してまた何回も往復していました。そして最後には5ℓぐらい入る大きなボトルを持ち出し小さな体で力をふりしぼって運んでいました。周りを見ながら自分で考えて行動している姿に感心させられました。

砂を掘ったり、運んだり、積んだりしながら身体の筋肉を使ったり、砂場を舞台に様々な物語や役割を演じたり好きなものを創造したり、他の子どもと協力して作業したり役割分担する中でコミュニケーション能力を向上させたりと砂場遊び一つとっても、遊びの中には学びがたくさん詰まっています。遊びって本当に素敵です。

虫とのわくわく体験

先日もお手紙しましたが、だんごむしが大好きなつばめ組。毎日毎日だんごむしを捕まえている子がいます。そして保育室ではだんごむし図鑑をよく見えています。

ある日ワラジムシを捕まえたおなかに卵をたくさん持っていました。それをみんなで観察してつばめの飼育箱で飼うことになりました。それを機に卵を抱えているだんごむしに出会うと「先生、卵あるよ。」と見せてくれるようになりました。よく観察していますね。

絵の具でだんごむしを描いたらみんなとても素晴らしい作品になりました。身近にみて、触って、感じた体験が生きていて素敵だなと感じています。園長先生にいただいた10匹以上のカブトムシの幼虫もさなぎになりかけています。どの幼虫も飼育箱の側面におうちを作っていて観察しやすいので、子どもたちは毎日見て「おはよう」と声をかけています。かわいいですね。カブトムシ、だんごむしの成長も子どもたちの日々の成長もとても楽しみです。

6月のねらい

○保育者や友達と過ごす中で、遊びを十分に楽しむ。

○いろいろな遊具に触れ、使って遊ぶことを楽しむ。



一人一人の思いが出せるように

園生活にも慣れ、不安や緊張感が取れてきています。園生活が安定したことに伴い、行動範囲も広がり活発になりました。友だちのやっていることに興味をもち一緒に遊ぶ姿も出てきました。その分、トラブルも起きています。自分を出せるようになった！つとどらえ、仲立ちをしたり、声をかけたり、一人一人の思いを受け止めていきたいです。

梅雨

梅雨の時期は室内で過ごすことも多くなってきます。リズム遊びや簡単なゲームなどの動きのある遊びを取り入れ、遊びの工夫を心がけていきます。

衣服の着脱も自分でできるように頑張っていきたいです！